

会 議 録

会 議 名	第5回 野田市生物多様性のだ戦略市民会議
議題及び議題毎の 公開又は非公開の別	<p>【報告】</p> <p>第4回市民会議（書面開催）における主な意見について（公開）</p> <p>【議題】</p> <p>（1）自然環境調査の実施状況について（公開）</p> <p>（2）歴史調査の報告について（公開）</p> <p>（3）社会環境調査（アンケート調査）の結果について（公開）</p>
日 時	令和3年6月28日（月） 午後1時30分から午後3時30分まで
場 所	市役所低層棟4階委員会室(リモート併用)
出席委員氏名	<p>【対面参加】</p> <p>会 長 長谷川 雅美</p> <p>副会長 茂木 康男</p> <p>委 員 田中 利勝、新保 國弘、田中 勝美、柄澤 保彦、 土屋 守、黒川 茂、川崎 裕幸、村田 歩、 柳澤 朝江、岡田 壽</p> <p>【リモート参加】</p> <p>委 員 朽津 和幸、香西 陽一郎、鈴木 隆博、鈴木 哲雄</p>
事 務 局	<p>今村 繁（副市長）</p> <p>宇田川 克巳（自然経済推進部長）</p> <p>中村 正則（みどりと水のまちづくり課長）</p> <p>池澤 孝之（みどりと水のまちづくり課課長補佐）</p> <p>野島 真紀（みどりと水のまちづくり課自然保護係長）</p> <p>久保木 史子（みどりと水のまちづくり課自然保護係主任主事）</p> <p>尾原 諒（みどりと水のまちづくり課自然保護係主事）</p> <p>満田 和総（みどりと水のまちづくり課自然保護係主事）</p>
欠席委員氏名	委 員 染谷 幸夫
傍 聴 者	なし

議 事	第5回野田市生物多様性のだ戦略市民会議の会議結果（概要） は次のとおりである。
<p>1 開会</p> <p>《事務局：中村課長》</p> <p>委員総数 17 名のうち 12 名が会場参加、4 名がリモート参加、計 16 名が出席となり、半数以上が出席しているため、条例の規定により会議が成立する旨を報告。</p> <p>今回の会議は希少種などのデータを取り扱わないため傍聴が可能であること、また傍聴希望者はいないが、遅れて希望者があった場合これを許可することの御了承を頂く。</p> <p>2 副市長挨拶</p> <p>《事務局：今村副市長》</p> <p>日頃から本市の生物多様性・自然再生事業に多大なる協力を頂き感謝申し上げます。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症対策として、書面会議や、今回のような対面とリモートの併用という形態で会議を行わざるを得ない状況について、御不便をおかけしていますが、御理解御協力の程、お願いしたい。</p> <p>今回の会議では、議題として主に 3 点挙げていますが、委員の皆様から忌憚<small>きたん</small>のない意見を聞かせていただいて、今後の戦略策定に活かしていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>3 委員紹介</p> <p>初参加となる 3 名の委員を御紹介。（鈴木（隆）委員、川崎委員、村田委員）。</p> <p>4 会長挨拶</p> <p>《会長》</p> <p>今回の会議では、これまでに実施した自然環境調査、歴史調査、アンケートによる社会環境調査と、戦略を検討する上での基礎調査がある程度、出そろってきた。</p> <p>私自身、自然に対する考え方や態度などは、子どもの頃に育った自然環境に大きな影響を受け、野田市で子どもたちが育つ環境として、いい自然を残すことが大切であり、その指針としての戦略づくりになると思う。本日の会議も皆さんと意見交換をしながら、考え方を共有できればと思う。</p>	

5 議事

【報告】第4回市民会議（書面開催）における主な意見について

《事務局：野島係長》

資料を説明。

《会長》

今の内容を伺って、この場で改めて発言されたい委員もいるかと思いますが、この後、関連する議事があるので、その中で御発言いただきたい。

【議題1】自然環境調査の実施状況について（資料1）

《事務局：野島係長》

資料1を説明。

《会長》

自然環境調査については、委員の中にも実際に調査に参加していただいている方々がいるので、ご意見や補足説明があればお願いしたい。

《委員》

鳥類を担当しているが、複数名で調査を行うため日程調整や天候による予定の変更などもあって苦労して進めている。何とか春季まで調査を実施したものの、新型コロナウイルス感染症を予防する観点から、スタートが遅れてしまったということがある。昨年の秋季調査の開始が遅れたことを考慮して、今年の秋季にも調査を行うなど1～2か月は当初の予定を延長して、余裕を持って自然環境調査に取り組んだ方が良く考える。

《委員》

主に昆虫類を担当しているが、調査は交点だと考えている。生き物の動きと私の動きがちょうど交わったときに生息が確認できる。そのため、交点に出会えるチャンスを増やしていただきたいので、10月頃まで期間を延長していただけたらと思う。

《会長》

調査員の皆さんは、市民の代表として市内の自然環境を観ていただいて、その入念な調査があるからこそ、結果を市民に伝えることも可能になると思う。今回、市の方で調査期間の延長を検討していただけるなら、調査期間を延長することによろしいか。

《委員》

私は魚類の調査も担当しているが、調査地に釣り人がいると、調査ができない。その場合は、調査を後回しにしている。また、三ツ堀里山自然園は、市民に人気があるが、利用者におけるマナーの徹底が必要。特に特定外来生物の持ち出しなども見受けられるので、現場に出くわした場合は説明して、理解してもらってはいるが、説明看板だけでは周知できないし調査中に時間が取られてしまうため、対応を考える必要がある。

《会長》

ただ今御指摘の点は、自然環境調査の課題にも挙げられている。非常に重要な点であり、調査の際に、三ツ堀里山自然園以外でも注意が必要なことがあれば、市民の自然との触れあい方等も記録に残していただき、事務局には戦略作成の中にマナーの徹底等を盛り込んでいただきたい。

【議題2】歴史調査の報告について（資料2-1、資料2-2）

《事務局：野島係長》

資料2-1を説明。

《委員》

資料2-2を説明。

《委員》

非常に深く歴史を掘り下げていただき感謝申し上げます。また、江川地区以外についても調べているのでしょうか。私は川間地区に住んでいるが、恐らく、最も古い貝塚が阿部沼にある。五駄沼も相当古い歴史があり、市内の歴史的なことを引き続き調べていただきたい。子供たちは元より大人にとっても勉強になると思うので、今後も期待している。中里にも市の歴史を調べている方がおり、その情報は貴重な財産だと思う。川間村が合併した

際に、資料を焼却してしまい残されていないとも聞いている。

《委員》

阿部沼や五駄沼については、もし古文書など残っていて提供してもらえらるなら、読んでみたいと思う。

《委員》

非常に勉強になった。コウノトリのガイドボランティアをしているので、今の説明を元に話をしたいと思う。現地に訪れた人に伝えることで、よりその場所を理解することにつながると思う。また、歴史を知ることで自分が住んでいる場所が、かつてはこうだったと改めてよく理解することにもなる。江川地区でのコウノトリの野生復帰も来館者にかつての様子を伝えることで意義が理解されると思うので、生物多様性と歴史を絡めていくことは重要だと思う。

《事務局：宇田川部長》

歴史調査についてですが、前回の「生物多様性のだ戦略」策定時にも田んぼの歴史など調べていただいております、膨大な資料の中から一部を紹介していただいております。今の自然環境がどのように残ってきたのかを知る上で、歴史を遡ることは重要と思ひ貴重な資料を集めていただき感謝申し上げます。市の自然環境の成り立ちの歴史について、引き続き新保委員に御協力を頂き、長谷川会長に御助言を頂いて、取りまとめたいと思う。

《会長》

生物多様性戦略において、シンボリックな江川地区の歴史と自然環境との関わりをまとめ、自分の住んでいる場所ではどうなのかと関心を持っていただくことが、自分たちの身の回りの自然を知る、大切に思うことにつながっていくことを期待している。事務局には今回ご報告いただいた内容を含め、戦略づくりの中に活かしていくということでよろしいか。

(異議無しの声)

<休憩（5分間）>

【議題3】社会環境調査（アンケート調査）の結果について（資料3-1、資料3-2）

《事務局：野島係長》

資料3-1、3-2を説明

《委員》

子供たちは公園で遊んでいるという結果が出ているが、自然の多い公園はあまりなく、都市的な公園で鬼ごっこをしている場面をたまに見かけるが昔に比べて減っており、最近ではコロナ禍にあって、ほとんど子供が外で遊んでいる姿は見られない。

また、公園自体に樹木などの緑が少ない。緑があることで大人も子供も心の癒やしを受けられると思うが、今の公園は緑が少なく子供の姿も見られない印象である。

《会長》

子供のアンケート結果で気になったのは、好きな生き物が増えてほしい・嫌いな生き物がいなくなってほしいという回答が非常に多かった。自分主体ではなく、身の回りにいる生き物たち、様々な命に対する関心を持つようになってほしい。身の回りの命に対する思いやりを育むことが必要であり、子供の頃に一度は生き物を殺してしまうことがあったりすると思うが、幼い頃の経験を踏まえて思いやりが養われていくと思うので、子供たちが訪れる公園にはいろいろな生き物がいる、触れ合えるようにすることが大切と意見を聞いて改めて思った。

《委員》

私が一番気にかかったのは、生物多様性について知っていますかという設問について、聞いたことはあるが意味は知らないという回答が子供たちに多く、大人も聞いたことがあり意味まで知っているという回答は30%しかいない。こここのところを変えていかなければ状況を変えることはできない。どうすれば生物多様性という言葉が市民に理解していただけるかということが鍵になると思う。生物多様性は自然の豊かさにつながると思うが、これを理解してもらうことが難しい。たった5文字の中にたくさんの内容が含まれる訳だが、小学5年生に理解できるようにしなければ、大人にも伝わっていかない。分かりやすい資料、リーフレットなどを用意するなども必要だと思うし、言葉として分かりやすい説明ができれば良いと思う。

《会長》

生物多様性という言葉を知っているか・いないかということよりも、自然を守る活動が増えてほしい。公園や水辺など自然の中で遊べる場所が増えてほしいという回答が、子供たちのアンケート結果として以前より増えていることに着目するなど、その言葉が意味する状態にしていくことの方がより重要なのだらうと思われる。

《副会長》

生物多様性という言葉、大人が端的に表現するところなるかもしれないが、自分たちが生きているということは、多くの魚、虫、動物たちが互いに関わり合いながら生きているということをお子たちに説明するとある程度は理解する。このことについて、資料にまとめようとする、分かるようで、分からない内容になってしまう。大人に至っては、はっきりと分かっているかどうか、もう少しかみ砕いた説明ができると良いと思う。このアンケート調査は、子供と大人（保護者）の両方に対して実施し、子供が大人にインタビューして回答してもらおうという方法が良かったと思う。

《委員》

このアンケート調査結果は、大変細かいところまでまとめていただき大変御苦勞であった。ただ残念なのは、子供たちも大人も、生物多様性に関心がないという結果にも受け取れる。このことは、地域の子供会、自治会、農協、土地改良区などの組織や仕組みを活用しながら、行う必要があると思う。また、コロナ禍でなければ学校を通じて、自然観察会等も行われると聞いた。地元組織の「野田市川間資源環境保全会」の「農地維持活動・資源向上活動」と地元小学校の「生物多様性教育」を組み合わせ、小学校の活動としての農業、自然観察を実施し、様々な学ぶ機会を設けている。学校に地元が協力する活動で、実体験や説明を行うようにすることが重要だと思う。大人は、生物多様性について関心が非常に少ないので、文書活字では読んでいただけず、実体験が大切だと思う。私の住む阿部という地区では、「野田市川間資源環境保全会」主催のゴミ拾い会の機会を通じて、生物多様性について体験しているが、地元の様々な組織や仕組みを活用して更に取り組んでいただきたい。

《委員》

野田市が生物多様性を市の施策として非常に重視されていることは、非常に貴重で、素晴らしいことと思っている。一方で、生物多様性とは、資料にもあるように、生態系、種、遺伝子のレベルを含む、理解が難しい概念で、その考え方を市民に理解してもらうのは簡単ではない。そこでまずは、野田市が生物多様性に関してどのような点を大事と考えているかを伺いたい。また、委員の中には小学校・中学校の校長先生もおられるので、市立小学校・中学校が生物多様性についてどのような共通認識を持ち、どのような教育を進めているのかを伺いたい。

コロナ禍で昨年、今年中止となってしまったが、野田市と東京理科大学との連携により開催して来た生物多様性講座を通じて、市内小・中学校の児童、生徒、保護者や先生方も含めてお話してみると、そのままの自然を残すことが大切との考えや、人が手を加えながら管理することの重要性など、生物多様性に対する考え方も多様であることを感じる。生物多様性についてどのように考え、何に重点を置くべきかについて、この市民会議としても共通認識を持つ必要があると思うし、現場で直接指導に当たっている学校の先生方も議論を深めて行くことも非常に重要と思う。

《事務局：宇田川部長》

今この場で全てを回答するのは時間の関係もあるため、今頂いた意見を踏まえて様々な形でまとめられているパンフレットやリーフレットなども参考にしていきたい。命のつながりや人とのつながりなど、様々なつながりが重要であるとの御意見かと思いますが、これをどのように表現していくかは、いろいろな意見を頂いていく必要があると思う。また、学校の先生方にどのようにして伝えていただくのかも今後伺っていききたいと思う。

《会長》

生物多様性という言葉が日本に入ってくるときに、バイオロジカルダイバーシティをどう訳すか議論があり、命の多様性という言葉に訳すことに異論が^{とな}唱えられ却下されたそうです。難しい概念を勉強しろというよりは、理解され浸透してきていると捉え、それよりも具体的な取組を進めることが重要と市の方で考えているものと認識している。子供たちのアンケート結果からも、コウノトリに対する関心が増えており、もっと生きものと触れ合いたいとの気持ちが育っていることの方がより重要と考えて、議論を先に進めていききたいがよろしいか。

(異議無しの声)

《副会長》

このアンケートを見て思ったのは、子供と保護者の皆さんは年齢が近いと思うが、この大人世代もあまり自然の中で遊んでいないのではないかと思う。昔は里山が身近にあったが今は荒れてしまっている。農家にプロパンガスが普及した時点から、里山の価値が薄れてしまった。今は里山の中に入っていけないし、公園はきれいさっぱり下草などが取り除かれ自然の中で遊ぶということとは程遠い。行政の方でも、どのような公園を作っていくかを考えなければいけないと思う。

《会長》

年齢差はあれども、今は多様な生きものと触れ合うということへ、何か渴きのようなものを皆さん感じている。個人で何とかするというのも限界があり、行政の方でもこの問題に対する施策を考える上で、このアンケートの結果から市民の率直な感触が伝わってくるので、とても重要な資料をまとめていただいたと思う。

たくさんのご意見を頂きましたので、この社会環境調査としてのアンケート調査結果について、諮りさせていただく。このアンケート調査の結果でよろしいか。

(異議無しの声)

5 その他

《会長》

最後に事務局から「その他」として何かありますか？

《事務局：中村課長》

今後の進め方について、議事の中で秋季調査の延長についてご承認いただいた。秋季調査の結果がまとまった時点で、調査員会を開催させていただきたいと思う。その後、第6回の市民会議を12月頃開催予定と考えており、次回の会議では改定の戦略概要について議論させていただきたい。その後も施策の検討、戦略(案)の検討など、4回の市民会議を必要と事務局では考えている。当初は戦略策定までの期間を、年度末で予定していましたが、このスケジュールについて意見を頂きたい。

この他、副読本「みつけよう！野田の魅力あふれる植物図鑑」を配布させていただきましたので、後ほど御覧いただきたい。

《会長》

先ほど、議事の中では、秋季調査の延長について御承認いただきましたが、戦略作成について、事務局の方でじっくり取り組んでいただいた方が良いかと思いますが、策定スケジュールの延長について、承認してよろしいか。どれくらい延長するかは改めて案内があると思いますが、引き続き委員の皆さんも協力していただくことでよろしいか。

(異議無しの声)

《会長》

本日は長時間のご審議に感謝申し上げます。今日頂いた意見については、事務局での対応をお願いしたい。

以上で本日の議事は全て終了したため進行を事務局にお返しする。

6 閉会

《事務局：宇田川部長》

本日は長時間にわたりご審議、貴重なご意見を頂き感謝申し上げます。私からは、市が取り組んでいる生物多様性のシンボルとしてのコウノトリについてだが、コウノトリをシンボルとした市の取組というのは、現在ある自然をどう残すか、開発が進む中自然と開発の狭間^{はざま}で自然をどう残すか、これは市のイメージ戦略でもありますが、注目されているところである。その足場となる自然環境をしっかりと守っていくために生物多様性戦略を今回改定するに至っている。本日の議論でも、公園の在り方であったり公園での子供たちの自然との触れ合い方であったり、そのような意見を戦略の中に取り入れながら、今後期間を次年度まで延長させていただいて取りまとめていきたいと考えている。

《事務局：中村課長》

以上をもって、第5回野田市生物多様性のだ戦略市民会議を閉会とする。